

平成30年度市政懇談会 開催結果概要

- 日時 平成30年7月4日(水)午後1時30分～
- 会場 阿寒湖まりむ館
- 出席者 16人

〔市長より説明 (別途資料参照)〕

○市立釧路総合病院新棟建設の延期について

○つながる まち・ひと・みらい ひがし北海道の拠点都市・釧路

- ・釧路市の課題
- ・まちづくり基本構想
 - 目指すべきまちづくり
 - 重点戦略
 - 域内循環
 - 域内連関
- ・平成30年度の予算
- ・まちの活力を高める地域経済の活性化
- ・地域経済を担う人材育成
- ・経済活動を支える都市機能向上

●意見交換

【参加者A】

阿寒湖温泉地区の公営住宅が足りなくなっています。昨年も同じような要望をしていますが、その後、何か動きはありますでしょうか。

【都市整備部長】

昨年、公営住宅等長寿命化計画を策定し、公営住宅のあり方について議論してきました。公営住宅は、低所得者層のセーフティネットの意味合いもあり、月額収入15万8千円以下のしぼりがあります。そうになると、なかなか入居できないという方も多いです。そこで、月額収入15万8千円から48万7千円以下の方を対象とした特定公共賃貸住宅の検討をしてまいりまして、1棟16戸の建設を決定いたしました。今年度から実施設計に入り、平成32年度に完成予定です。また、既存のまりも団地のリニューアルも行っていく予定です。

【参加者A】

阿寒湖温泉地区の災害時の備蓄について、市としてどのくらいの数量を確保しているのでしょうか。

【市長】

当初は、避難対象者の3日分の食料等を備蓄する指針でありました。そうしますと、平成17年の中央防災会議では釧路市の避難対象者は5千～6千人と

のことでしたので、3日間3食で約5万4千食です。その後、北海道で示した避難対象者12万5千人ですと、約110万食になります。その数量を備蓄するのは、現実的には無理です。最低限の備蓄は、市でも確保していますが、72時間分は、個人個人で確保していただくよう、よろしくお願ひしたいと思ひます

【阿寒町行政センター地域振興課長】

阿寒湖温泉地区では、まりむ館に、カロリーメイト240個分、アルファ米150食分、飲料水2リットル150本、1.5リットル160本、毛布100名分などその他生活関連用品を備蓄しています。

【参加者B】

現在、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構には、(株)JTBと(株)電通から職員が出向してきてきています。2人には、来ていただいた1年半で相当大きな活動してもらっています。その原資となっているのが、地方創生交付金と釧路市の補助であり、2年間ですので、来年3月で支援が終わります。なんとか、継続できないものでしょうか。

また、阿寒湖温泉6丁目の分譲地について、これからの販売に向けた取り組みについてお聞きしたいです。

【阿寒町行政センター長】

阿寒湖中学校に隣接した分譲地については、平成10年の4月から販売を開始しました。33区画あるうちの14区画が売れましたが、平成17年以降は販売実績がありません。国立公園内ということで、いろいろな規制があり、平成22年に環境省と協議を行い、一部規制緩和をしていただきましたが、販売に結びつきませんでした。今年、再度、環境省と協議をし、更なる規制緩和についてお願ひしていますので、なんとか販売に結びつけたいと思っています。

【観光振興担当部長】

DMO（観光地域づくりの中核となる法人）の強化ということで、昨年度、今年度の2年間、2人の専門人材を配置しています。地域にとって、重要な役割をしているのは認識していますが、現在、国から財源的に大きな支援をもらっているものなので、今後、協議をして、期間延長等についてどのような方法があるか探っていくたいと思ひます。

【参加者C】

医療の事が心配です。将来的に阿寒湖温泉地区の医療をどうしていくのか、現状のまま道が診療所を持つのか、それとも市として持つのか、また、それ以外の考えがあるのかお聞きしたいです。医者がいなくなったら困ります。

【市長】

地域にとって、医療は極めて重要だと思ひています。「衣食住」といいますが、安全安心な医療、安全安心な食料、安全安心な地域の「医食住」だと思ひています。

道立阿寒湖畔診療所については、先々の事を考えると、今のまま北海道で進めていくのか、市としてどのようにしていくのか等、課題としてあります。医師の確保についても、難しいですがとても重要ですので、引き続きしっかりと取り組んでいきたいと思えます。

【参加者B】

新聞に出ていました、釧網線の活性化について話を聞きたいです。

【市長】

J R北海道が路線維持困難とする釧網線について、釧路とオホーツク管内の沿線9市町村でJ R釧網本線維持活性化沿線協議会を作り、さまざまな協議を行っています。その中で、民間の活力を使って、この釧網線を利活用し、観光の魅力を引き出す取り組みを行う事業者を公募したところ、2社応募があり、大変良い提案をしていただきました。審査の結果、W I L L E R（ウィラー）株式会社に決定し、9月から2カ月間、実証実験を行う予定です。事業内容は、釧網線自体をベースにして、沿線の地域にいろいろ波及するよう、周辺の資産を活用していく取り組みになっています。W I L L E R株式会社は、海外にも、さまざまなネットワークを持っているので、そういう所とも連携していきたいと思っています。

【市長】

また、この機会ですのでI Rについてお話ししたいと思えます。釧路市では、阿寒の豊かな自然、アイヌ文化を活かした地方型I Rの誘致を進めてきました。阿寒が持っている歴史・風土・文化を守りながらと考えていました。しかし、国で考えているI Rは、都市型で規模が大きいものであり、私たちが進めているものとは違う状況です。今後は、苫小牧と連携しながら取り組みを進めていきたいと思えます。アイヌ文化の情報発信については、引き続き行ってまいります。